

平成19年度卒業研究発表会要旨集の巻頭にあたって

八畑 謙介 (筑波大学 生命環境科学研究科、生物学類卒業研究発表会世話役)

巻頭文のはじめにあたり、まずは卒業研究生のみなさんに対して、それぞれのこの一年の労をねぎらうとともに、今後の飛躍と発展をお祈りしたいと思います。こうして出来上がった要旨集をみると、卒業研究のさまざまな苦労やよろこびが思い起こされ、感慨を深く感じるのではないのでしょうか。そこには達成感があるかもしれないし、定めた目標に届かなかった反省があるかもしれません。進路の如何に関わらず、よろこびにせよ悔いにせよ、それが今後のさらなる活躍の糧となるに違いないと信じています。また、近い将来に卒業研究を行なうであろう後輩のみなさんに対しては、この卒業研究発表会と要旨集が、将来自分の進むべき道を考える際の指針となり、また、生物学研究への意欲を奮い立たせるための、ひとつのきっかけとならんことを期待しています。

今年度は発表要旨の提出を新しい Web 入稿システムで行ないました。卒業研究生のみなさんは初めてのことに困惑されたと思いますし、慣れない作業に苦労されたことと思います。お疲れさまでした。この新しい入稿システムの導入により要旨原稿の提出期限はこれまでより1か月遅くなり、要旨集の編集にかかる時間と労力は大幅に軽減されました。昨年度まで発表要旨の提出は1月上旬を期限としてきましたが、卒業研究発表会の2か月も前に、まだ十分にそろわないデータをまとめて要旨を作成して提出することはとても大変なことで、以前から提出期限をもっと遅くしてほしいとの要望がありました。また、昨年までは全員の要旨の体裁の統一を図るために、クラス代表をはじめとする一部の卒業研究生が自分の発表準備にあてる時間を犠牲にして提出された要旨の見直しを行なってきましたし、丸尾文昭先生をはじめとしてつくば生物ジャーナルの編集に携わる方々が長い時間をかけて要旨集の編集を行なってきました。発表会の2か月も前に作成した要旨ですから、その後のデータの追加や考察の深化によって内容の修正や変更を要望する声も少なくありませんでしたし、その都度その要望に対応してきた一部の学生・教員にとってはその負担は決して小さなものではなかっただろうと思います。今年度導入した Web 入稿システムによって、これらの点の多くが解消されることになりました。この入稿システムの導入は伊藤希先生のご尽力なくしては実現することはできませんでした。伊藤先生はシステムの構築から運用まで、たくさんの時間と多大な労力を費やしてくださいました。卒業研究発表会世話役として、また、卒業研究生の指導担当教員の一人として、ここに心より厚くお礼を申し上げます。

この数年間の卒業研究発表会の様子をみていて、生物学類の卒業研究発表会が自分が卒業研究生だった当時とくらべてとてもよいものになっていると感じ、大変うれしく思っています。昨年度まで卒業研究発表会の世話役を担ってこられた千葉親文先生をはじめとする多くの方の努力の結果であろうと思います。卒業研究生が一所懸命に自分の研究と発表の準備をするのはもちろんのこと、後輩が、教員が、それぞれに卒業研究生を支えて大学生活の集大成を披露する場を作りあげる、これを筑波大学生物学類のすばらしい伝統として今後に伝えたいとともに、今年度の発表要旨の Web 入稿システムの導入のように、さらに良くできる点については改良を加えてゆけたら、と思います。最後になりましたが、平成19年度卒業研究発表会に多少を問わず何らかのかたちで携わった全てのみなさんに対して感謝いたします。

Contributed by Kensuke Yahata, Received February 14, 2008.